

シラバス詳細

IPE科目														
授業科目名														
カリキュラム2019														
I PW論 Interprofessional Work														
No.	時間割番号			開講時期				曜日・時限						
1	100300301			後期				月曜3限						
2	100300302			後期				月曜3限						
3	200300301			後期				月曜3限						
4	200300302			後期				月曜3限						
ナンバリング														
B_IPE2100														
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別														
No.	看護		理学	作業		社福		福祉	行動		検査	口腔	教職	
	専攻	編入				専攻	編入		専攻	編入				
1	2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	3◎	2◎	2◎	3○	2◎	2◎		
2	2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	3◎	2◎	2◎	3○	2◎	2◎		
3	2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	2◎		
4	2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	2◎		
履修における注意点・履修条件等														
ヒューマンケア論・ヒューマンケア体験実習につづく全学必修の科目です。履修者は前期の前半(学籍番号が奇数=①)、後半(学籍番号が偶数=②)に分かれていますので、掲示などにより自分がいつ履修するのか確認してください。またチームごとおよび授業内容によって講義室が変わることがありますのでご注意ください。														
科目責任者	國澤 尚子			単位数・時間数	1単位 15時間				授業形態	講義				
科目担当者	北島裕子、高柳雅朗、小川孔美、廣田千穂、國澤尚子													
科目に関連する実務経験														
授業の概要														
IPW論は、保健医療福祉・教育分野の多職種が、患者・利用者中心の支援活動をチームで行うための基本的な考え方とスキルを学び、3年次のIPW演習、4年次のIPW実習に発展していく科目です。IPW論では「尊重」をテーマに、自分が目指す職種及び自分以外の関係職種への理解、およびチーム活動の基本的なスキルの獲得を目指します。これらに関する考え方・理論を講義にて教授するとともに、異なる学科の学生による混合グループでチーム活動を行い、体験を通じて学びます。ヒューマンケア論(共有)、ヒューマンケア体験学習(発見)を基盤として、IPW論(尊重)、IPW演習(合意)、IPW実習(創造)と学年進行に伴って連携と統合のための能力を養う保健医療福祉科目の一科目です。また本科目は「彩の国連携大学連携科目」の一つです。 授業はZoomによる遠隔で行います。														
学習のねらい														
授業の到達目標として、次の4つを設定しています。 ①患者・利用者を中心とした専門職連携実践の意義と方法を理解する ②チームメンバー一人一人やその専門分野の特徴と多様性を相互に理解する ③チーム形成の理論と方法を学び、課題解決のための議論を主体的に行う。 ④リフレクションの理論と方法を用いて、チーム活動に関する今後の自己学習課題を明確にする。														
関連するディプロマポリシー														
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考			多面的・専門的	連携・統合				国際的・地域					
○				○	○									
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標			授業概要				担当教員		講演者				
1	専門職連携実践が必要とされている背景と、本授業で獲得を目指す連携の能力の概要を理解する。また、埼玉葛南専門商連携推進ネットワークにて活動している多職種の日々の実際と連携のありかたを理解する。			【奇数クラス】10/4 【偶数クラス】11/29 オリエンテーション 多職種を知る①(ゲストスピーカー) 精神保健福祉士、薬剤師、主任介護支援専門員				國澤、北島、高柳、小川、廣田		☑				
2	本学で養成していない専門職が、どのような連携実践の場面において、どんなことに留意し、行動しているのかについて理解する。			【奇数クラス】10/11 【偶数クラス】12/6 多職種への理解②(ゲストスピーカー) 医師、栄養士、コミュニティ・デザイナー				國澤、北島、高柳、小川、廣田		☑				
3	本学の異なる学科の学生同士グループを形成し、各メンバー個人の理解と、そのメンバーが学ぶ専門知識・技術に対する理解を深める。また、ディスカッションやコミュニケーションの基本的な様態について理解し、実践する。			【奇数クラス】10/18 【偶数クラス】12/13 チーム形成				國澤、北島、高柳、小川、廣田		☐				

4	チームによるディスカッションのための方法論に基づき、実際にグループディスカッションを行い、基本的方法を習得する。	【奇数クラス】10/25 【偶数クラス】12/20 チームワークの実際	國澤、北島、高柳、小川、廣田	<input type="checkbox"/>
5	リフレクションの意義と意味を理解し、実際に各グループでリフレクションを行うことを通じ、個人及びそれぞれのチームが、「体験から学ぶ」方法を習得する。	【奇数クラス】11/1 【偶数クラス】1/17 リフレクション	國澤、北島、高柳、小川、廣田	<input type="checkbox"/>
6	各チームメンバーの表出により、事例に対するそれぞれの専門分野からの知見を共有し、目標の設定や援助計画を策定する方法を獲得する。	【奇数クラス】11/8 【偶数クラス】1/24 模擬IPW①	國澤、北島、高柳、小川、廣田	<input type="checkbox"/>
7	各チームメンバーの表出により、事例に対するそれぞれの専門分野からの知見を共有し、目標の設定や援助計画を策定する方法を獲得する。また、チームでこれまでの活動をリフレクションし、今後の自己学習課題を見出す。	【奇数クラス】11/15 【偶数クラス】1/31 模擬IPW②	國澤、北島、高柳、小川、廣田	<input type="checkbox"/>

教科書

埼玉県立大学編『IPWを学ぶ－利用者中心の保健医療福祉連携』（中央法規）

参考書、教材等

評価方法

課題シート（第3回で使用し提出）、レポート課題（授業1週間後提出締切）、授業への参加度により評価を行う。

レポート課題：IPW論で学んだことの中から、印象深いことを3つ選び、それぞれについて自分のIPW論の授業における具体的体験と結び付けて論じなさい（2,000字以上／WebClassを通じて提出）。

授業外における学習方法

教材を取りまとめた冊子を配布します。教材を一読したうえで毎回の授業に望んでください。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

多学科の学生との混成チームで履修します。欠席の多さや参加度の低さはチームの学びを減少させます。ぜひ積極的にチーム活動に参加し、主体的に学びを獲得してください。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考
1	佐藤厚志	三郷市地域包括支援センターみさと南 元所長・主任介護支援専門員・精神保健福祉士	
1	土居努	埼玉筑波病院 薬剤師	
1	松家まゆみ	越谷市医療と介護の連携窓口 主任介護支援専門員・介護福祉士	
2	中野智紀	東埼玉総合病院 医師	
2	時田美恵子	東埼玉総合病院 管理栄養士	
2	小泉圭司	元気スタンドぶリズム代表社員 コミュニティデザイナー	

最終更新日：2021/09/10 17:29

印刷

閉じる

シラバス詳細

IPE科目														
授業科目名														
カリキュラム2019														
I PW論 Interprofessional Work														
No.	時間割番号			開講時期				曜日・時限						
1	100300301			後期				月曜3限						
2	100300302			後期				月曜3限						
3	200300301			後期				月曜3限						
4	200300302			後期				月曜3限						
ナンバリング														
B_IPE2100														
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別														
No.	看護		理学	作業		社福		福子	行動		検査	口腔	教職	
	専攻	編入				専攻	編入		専攻	編入				
1	2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	3◎	2◎	2◎	3○	2◎	2◎		
2	2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	3◎	2◎	2◎	3○	2◎	2◎		
3	2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	2◎		
4	2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	2◎		
履修における注意点・履修条件等														
ヒューマンケア論・ヒューマンケア体験実習につづく全学必修の科目です。履修者は前期の前半(学籍番号が奇数=①)、後半(学籍番号が偶数=②)に分かれていますので、掲示などにより自分がいつ履修するのか確認してください。またチームごとおよび授業内容によって講義室が変わることがありますのでご注意ください。														
科目責任者	國澤 尚子			単位数・時間数	1単位 15時間				授業形態	講義				
科目担当者	北島裕子、高柳雅朗、小川孔美、廣田千穂、國澤尚子													
科目に関連する実務経験														
授業の概要														
IPW論は、保健医療福祉・教育分野の多職種が、患者・利用者中心の支援活動をチームで行うための基本的な考え方とスキルを学び、3年次のIPW演習、4年次のIPW実習に発展していく科目です。IPW論では「尊重」をテーマに、自分が目指す職種及び自分以外の関係職種への理解、およびチーム活動の基本的なスキルの獲得を目指します。これらに関する考え方・理論を講義にて教授するとともに、異なる学科の学生による混合グループでチーム活動を行い、体験を通じて学びます。ヒューマンケア論(共有)、ヒューマンケア体験学習(発見)を基盤として、IPW論(尊重)、IPW演習(合意)、IPW実習(創造)と学年進行に伴って連携と統合のための能力を養う保健医療福祉科目の一科目です。また本科目は「彩の国連携大学連携科目」の一つです。 授業はZoomによる遠隔で行います。														
学習のねらい														
授業の到達目標として、次の4つを設定しています。 ①患者・利用者を中心とした専門職連携実践の意義と方法を理解する ②チームメンバー個人やその専門分野の特徴と多様性を相互に理解する ③チーム形成の理論と方法を学び、課題解決のための議論を主体的に行う。 ④リフレクションの理論と方法を用いて、チーム活動に関する今後の自己学習課題を明確にする。														
関連するディプロマポリシー														
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考			多面的・専門的	連携・統合				国際的・地域					
○				○	○									
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標			授業概要				担当教員		講演者				
1	専門職連携実践が必要とされている背景と、本授業で獲得を目指す連携の能力の概要を理解する。また、埼玉葛南専門職連携推進ネットワークにて活動している多職種の日々の実際と連携のありかたを理解する。			【奇数クラス】10/4 【偶数クラス】11/29 オリエンテーション 多職種を知る①(ゲストスピーカー) 精神保健福祉士、薬剤師、主任介護支援専門員				國澤、北島、高柳、小川、廣田		☑				
2	本学で養成していない専門職が、どのような連携実践の場面において、どんなことに留意し、行動しているのかについて理解する。			【奇数クラス】10/11 【偶数クラス】12/6 多職種への理解②(ゲストスピーカー) 医師、栄養士、コミュニティ・デザイナー				國澤、北島、高柳、小川、廣田		☑				
3	本学の異なる学科の学生同士グループを形成し、各メンバー個人の理解と、そのメンバーが学ぶ専門知識・技術に対する理解を深める。また、ディスカッションやコミュニケーションの基本的な様態について理解し、実践する。			【奇数クラス】10/18 【偶数クラス】12/13 チーム形成				國澤、北島、高柳、小川、廣田		☐				

4	チームによるディスカッションのための方法論に基づき、実際にグループディスカッションを行い、基本的方法を習得する。	【奇数クラス】10/25 【偶数クラス】12/20 チームワークの実際	國澤、北島、高柳、小川、廣田	<input type="checkbox"/>
5	リフレクションの意義と意味を理解し、実際に各グループでリフレクションを行うことを通じ、個人及びそれぞれのチームが、「体験から学ぶ」方法を習得する。	【奇数クラス】11/1 【偶数クラス】1/17 リフレクション	國澤、北島、高柳、小川、廣田	<input type="checkbox"/>
6	各チームメンバーの表出により、事例に対するそれぞれの専門分野からの知見を共有し、目標の設定や援助計画を策定する方法を獲得する。	【奇数クラス】11/8 【偶数クラス】1/24 模擬IPW①	國澤、北島、高柳、小川、廣田	<input type="checkbox"/>
7	各チームメンバーの表出により、事例に対するそれぞれの専門分野からの知見を共有し、目標の設定や援助計画を策定する方法を獲得する。また、チームでこれまでの活動をリフレクションし、今後の自己学習課題を見出す。	【奇数クラス】11/15 【偶数クラス】1/31 模擬IPW②	國澤、北島、高柳、小川、廣田	<input type="checkbox"/>

教科書

埼玉県立大学編『IPWを学ぶ－利用者中心の保健医療福祉連携』（中央法規）

参考書、教材等

評価方法

課題シート（第3回で使用し提出）、レポート課題（授業1週間後提出締切）、授業への参加度により評価を行う。

レポート課題：IPW論で学んだことの中から、印象深いことを3つ選び、それぞれについて自分のIPW論の授業における具体的体験と結び付けて論じなさい（2,000字以上／WebClassを通じて提出）。

授業外における学習方法

教材を取りまとめた冊子を配布します。教材を一読したうえで毎回の授業に望んでください。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

多学科の学生との混成チームで履修します。欠席の多さや参加度の低さはチームの学びを減少させます。ぜひ積極的にチーム活動に参加し、主体的に学びを獲得してください。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考
1	佐藤厚志	三郷市地域包括支援センターみさと南 元所長・主任介護支援専門員・精神保健福祉士	
1	土居努	埼玉筑波病院 薬剤師	
1	松家まゆみ	越谷市医療と介護の連携窓口 主任介護支援専門員・介護福祉士	
2	中野智紀	東埼玉総合病院 医師	
2	時田美恵子	東埼玉総合病院 管理栄養士	
2	小泉圭司	元気スタンドぶリズム代表社員 コミュニティデザイナー	

最終更新日：2021/09/10 17:29

印刷

閉じる